

長野県の状況

●SDGsをビルトインした「しあわせ信州創造プラン2.0」の取組を加速

- ・2030年の将来像を展望した総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン2.0～学びと自治の力で拓く新時代～」の取組をスタート。
- ・計画には「誰一人取り残さない」「経済・社会・環境の三側面の課題を統合的に解決する」というSDGsの理念を組み込み。
- ・地方創生とSDGsの取組を展開しつつ、誰一人取り残さない「確かな暮らしが営まれる美しい信州」の実現を目指している。

取組

しあわせ信州創造プラン 2.0 (長野県総合5か年計画 2018年度～)

【2030年のめざす姿】

- ・ 学びの県
- ・ 産業の生産性が高い県
- ・ 人をひきつける快適な県
- ・ いのちを守り育む県
- ・ 誰にでも居場所と出番がある県
- ・ 自治の力みなぎる県

<県の総合計画に SDGsの考え方がビルトイン>

- ✓概ね 2030 年の将来像を実現するための今後5年間の行動計画
- ✓SDGsの達成に寄与するもの

【基本目標】

確かな暮らしが営まれる美しい信州

～学びと自治の力で拓く新時代～

「確かな暮らし」:「誰一人取り残さない」というSDGsの考え方に呼応

「美しい」:豊かな自然や農山村の原風景などの美しさ(持続可能)

持続可能な地域づくり

学びと自治の力による「自立・分散型社会の形成」

ステークホルダーが主体的に学び、協働しながら地域の課題解決に取り組み、多様な地域の個性を活かす自立・分散型社会をめざす。

<優先的に取り上げるゴール>



誰もが学べる環境づくり

- 信州子どもカフェの普及拡大
- 信州・タウンキャンパス構想の実現

地域内経済循環の促進

- エシカル消費の促進
- 再生可能エネルギー100%地域実現

快適な健康長寿のまち・むらづくり

- 自家用車に頼らない地域づくり
- 省エネ建築による断熱性能向上促進

豊富な自然エネルギー資源を活かしたエネルギー自立・分散型モデル地域の形成

長野県「SDGs 未来都市」構想

●地方創生に必要な施策の継続的な実施

- ・長野県では平成28年度から地方創生推進交付金を活用し、まち・ひと・しごとの各分野で地方創生に資する施策を実施
- ・地方創生に向け、今後も継続して取り組んでいくことが重要

取組

○交付金を活用している事業の代表例

- ・航空機産業集積化による地域イノベーションの創出（H28～32年度）
航空機システム関係の企業や研究開発機能が集積する「**アジアの航空機システム拠点**」を形成
- ・信州医療機器の事業化・グローバル展開（H30～32年度）
新規医療機器（完成品）の開発・事業化を促進し、**世界市場へ医療機器部材を供給**



H27.11に初飛行が成功したMRJ

課題

- SDGsの認知度が低く、県民の参画が進んでいない
県民認知度**3.6%**（環境保全協会・県世論調査協会調べ）
<参考：全国**14.8%**（電通調べ）>
- SDGsの達成に向けた取組については、「SDGs未来都市」や「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」の制度が始まったが、**国の統一的な視点での財政支援措置が少なく、新たな施策を始めることが困難**
SDGs固有の優遇措置は「**自治体SDGsモデル事業**」のみ（採択は全国で10件）
（SDGs未来都市への優遇措置がある関連予算は全省庁で13件のみ）
- 地方創生推進交付金については、内容が類似する**2種類の計画**を提出する必要があるなど**手続きが煩雑**であるほか、原則として**ハード事業が総事業費の半分以下**に制限されている
交付金実施計画・地域再生計画

提案・要望

1 SDGsの達成に向けた取組強化

SDGsの認知度向上のための**普及啓発等を積極的に行う**とともに、SDGs未来都市などSDGs達成に向けて取り組む先進的な地方公共団体に対して、**継続的に財政措置**を行うこと。

また、SDGsを推進する観点から、**既存の補助制度等についても**、経済・社会・環境の3側面の課題を統合的に解決する取組を**重点支援**すること。

2 地方創生推進交付金の確実な予算措置と運用改善

地方創生推進交付金について、引き続き、**確実に予算措置**すること。また、**手続きの簡素化**を図るとともに、地方公共団体の実情に応じ、**施設整備も含めた取組が行えるような制度**にすること。